

清明の前

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年04月05日

紅白の桃



桜も見頃になっている時期、中延4丁目の民家では、二色の桃の花が咲いていて、道行く人たちを楽しませています。

源平枝垂桃と呼ばれ、鮮やかな赤と白の、色の対比が見事です。中には、白い花に赤が混じっているものもありました。



源平枝垂桃は、戸越八幡神社でも創建480周年記念として植樹された若木が、花を付けています。

春の紅葉

春の新緑の時期、緑ではなく紅く萌える葉を付ける木々があります。オオベニガシワやチャンチンが有名です。



旗の台5丁目では、オオベニガシワが紅い葉を付けていました。よく見ると、花も咲いていました。



中延4丁目では、イロハ紅葉の黄緑と対比的に、秋を思わせる真赤な紅葉です。



また、カナメモチ（アカメモチ）も暖くなる時期から新芽が赤色で出てきます。ただ、以前は5月に近い頃だったと思います。3月末から色付いているので、温暖化の影響が現れています。

路地の散策



旗の台5丁目では、何時もの民家にカリンが花を付けていました。黄色い拳のような実が付きます。



ミツバツツジが見頃を迎えていました。普通のツツジと違って、緑の葉の前に花がさきます。



ハナカイドウも咲き始めていました。濃いピンクの花で桜の後、路地を賑わす花です。



戸越八幡神社の源平枝垂桃を見に行く途中、昨年と同じ戸越公園西口近くの、大崎高校前で、土筆を見つけました。2本ありました。他所よりかなり遅いようです。

平成20年4月2日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ: 平成20年度

投稿日: 2008年04月05日

清明の頃

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年04月09日

ねむの木の庭



桜の時期、ねむの木の庭では、リラの花が咲きます。昨年と同じ4月5日に訪ねてみましたが、未だ蕾の状態、改めて4月7日の雨が降る前に開花を確認しました。リラの木は、中央のガス灯の近くに2本あり、薄紫の可愛らしい花の集まりで、今年は三房あります。モクセイ科の初夏（4月～5月）の花で、リラは仏名、ライラックは英名です。開花時期は短く、1週間ほどです。



ガス灯近く、シャクナゲの下では二輪草が開花しました。キンボウゲ科の多年草で、一つの茎が途中から二つに分かれ、その先に夫々、白い可愛い花が咲きます。三つに分かれることもあるそうです。

東五反田

五反田公園の桜並木の坂を上りきった所に今年もニワトコが淡い黄緑の花を付けていました。



その直傍では、アオキが花を付けていました。手前に雌株があり、雌株は奥の方にありました。雌花は、薄紫の4枚の花びらの中央が明るい緑色になっています。雌花は、花びらの根本が白い（黄色っぽい）帯びで繋がれています。中央の緑は濃く、雌花のように出ていません。



五反田駅前の桜田通りの歩道脇では、早くもツツジが咲き誇っていました。日当たりのよい舗装道路、他より気温が高いようです。

旗の台



生垣にはムスカリ、ミニチューリップ、ラベンダー、ユリオプスデージー等賑やかに咲いています。何時も、季節の花々が賑やかな生垣です。



ドウダンツツジも咲き始めています。白い小さな釣鐘状の花です。



紅花トキワマンサクは、満開状態です。晴れていれば、ピンクの花びらが輝いて見えます。秋には、気象異常を感じさせるほどに咲きましたが、春の満開状態は秋の咲き具合とは違い、花が溢れています。やはり春です。

平成20年4月7日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年04月09日

この時期、品川区内でカラスが巣作りをしています！

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年05月12日

このところ(4月中旬～5月上旬)、区内を歩いていると、カラスが巣作りしているのを発見することがあります。私は、樹木のテッペン付近にある巣を一つ、電柱のトレンスの上にある巣を二つ、見つけました。



(カラスの巣作り現場1)



(カラスの巣作り現場2)



【カラスの巣作り現場1】

品川区西品川二丁目の「三ツ木児童遊園」の高さ5メートル程のシイノキのテッペンにカラスが巣作りを始めました。

第一段階は針金製のハンガーや針金を何本も集めてきて、幹から出る太い枝のつけねに巣の土台をつくります。

その後、比較的太めの枯れ枝等をくわえてきて、すり鉢状に敷き詰め第二段階終了です。仕上げは、細めの枯れ枝やシュロのヒゲ状のものを組み合わせてすり鉢状の巣を完成させます。そこに卵を産みます。

毎日のように木から真上の巣を観察しましたが、いつしか、カラスが卵を温めているのか、カラスの姿は見えないのですが、木の下をぐるり回ると、飛び立つようになりまし

た。「三ツ木児童遊園」内シイノキの巣は4月30日、専門業者がはしご車で来て撤去しました。巣の中には卵が三つあったということです。想像したとおりでした。

昨年は、の向かって右側の高さ10メートル程のケヤキのテッペン付近にカラスは巣作りをしましたが、近所の方が区役所へ通報し、専門業者がはしご車で来て撤去しました。撤去した巣を見た人の話では、とても精巧に作られているのでビックリした、ということです。

【カラスの巣作り現場2】

JR山手線の大崎駅から少し品川方面に行くと百反歩道橋が山手線をまたぐように架けられています。そのすぐ近くの山手線外側のコンクリート製電信柱の上にカラスは巣作りをしていました。人目につきやすいところに堂々と巣作りです。写真撮影日は5月6日ですが、やっと第一段階の巣の土台作りを終えて、第二段階の木の枯

れ枝等を敷き詰めている段階と見受けられました。

カラスが巣作りをしているときは、直下に木の枝等が落ちていますので、注意してみれば分かります。

カラスは家庭ゴミを食い散らかし街を汚す、ハトやスズメ等の小動物を襲うなどの行動をとります。また、カラスが子育てをしている時期は、巣の下を通過する人を威嚇したりします。

そのようなことから、東京都や区では、カラスの捕獲、巣の撤去等を薦めています。私たちもカラス対策に協力し、巣を見つけたら、区役所(環境課指導相談担当)へ連絡いたしましょう。

●布川憲満 (記者NO. 060107)

カテゴリ: 平成20年度

投稿日: 2008年05月12日

カルガモの雛誕生（小山巖島神社）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年05月13日



小山7丁目にある小山巖島神社、弁天池の辺りで、今年もカルガモの雛が誕生しました。

カルガモが住み着くようになって、10年近くになります。3月末から、少しずつ卵を産み始め、4月10日頃には、十数個確認されていて、巣籠もりに入っていました。4月は雨の日も多く、気温もまちまちで、雛の誕生が心配されていましたが、以前と同じ頃の4月末、28日お昼ごろ、5羽ほど生まれているのが確認され、早速出かけてみました。28日、弁天橋の、ツツジの木に囲まれて、新鳥は未だ、巣籠もっています。時折、生まれたばかりの雛たちが、顔を覗かせていました。残りの卵を温めている親鳥は、雛たちが出て行かないよう必死に羽を覆い被せていました。この日の夕方、6羽の孵化が確認されました。



29日には、早朝から、賑やかだったそうです。生まれていたのは12羽、早速水に入り、親鳥に寄り添うように泳いで餌場に向い、用意された餌のお皿を入れて食事です。



食後も、親鳥と一緒に、必死に泳ぎました。途中、親鳥が池に縁に上がると、雛たちは、水の中で待っています。陸に上がるには、一寸高すぎるようでした。



池を一回りした後は、先ず、親鳥が休憩所に上がり、雛たちも後に続きます。水を弾き、毛づくろいに一生懸命です。その後、親鳥のおなかの下に潜り込んで一休みです。一時間程度休憩の後、母鳥の後について泳ぎ、餌場で食事です。一日、この繰り返しでした。



29日はうわさを聞いたのか、見学の人が次々と訪れて来ました。カメラ付き携帯を池に落とした人もいました。新聞社の取材予告も入っているとの事でした。一週間ほど毎日観察すれば、雛たちの微笑ましい姿が数多く見られると思いますが、とりあえず、雛誕生の話題です。

平成20年4月28～29日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年05月13日

街中の田植祭

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年05月19日



二葉町1丁目にある下神明天祖神社境内にある稲荷社で、恒例の御田植祭が行われました。神明稲荷講の人たちにより受け継がれている行事です。神社境内には、社殿の左側に、稲荷社と、神前に奉納する米、神饌を作る田、斎田があります。



午前11時、下神明天祖神社の神職により、大太鼓が叩かれ、式典が始まりました。雅楽が演奏される中、祝詞やお払い等式典が行われ、最後は、参列者の代表により、玉串が奉納されました。鳥居の中は、大勢の参列者で埋め尽くされました。大太鼓で御田植祭の式典は終了です。



続いて、田植の行事です。稲荷社の祠から、お払いを済ませた瑞々しい稲穂が取り出され、斎田の前に運ばれました。参列者は、一本ずつ、順序よく、苗を植えていきました。式典を見学していた人たちも、後に続きました。



参加した子供たちも多く、親子一緒に田植えを行いました。一人で参加した子もいて、神社の人に手伝ってもらいながら植えていきました。参加したのは見学の人も含めて百名ほど、畳2畳分の畑は、次々と緑の苗の列に変わっていきました。



最後は、水を追加です。

秋に収穫の後、神饌として下神明天祖神社、稲荷神社に奉納され、秋祭りでお神輿に使われるそうです。

水田に入って行う本格的な田植ではありませんが、身近な街中の神社で行われている田植の祭事でした。

平成20年5月6日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年05月19日

弁天池への散歩道

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年06月03日

小山巖島神社の弁天池の辺でカルガモの雛がかえって早2週間（5月15日時点）、その後の成長を見ようと出かけてみました。途中、路地のいろいろな花々に出会いました。



旗の台5丁目、自宅近くでは、赤と白の花が入れ混じって咲いているハコネウツギが、香りを漂わせていました。もともと白い花ですが、後に赤色に変わるものです。本来、6月に咲く、スイカズラ科の落葉低木で、箱根と関係なく、錦帯花、ベンケイソウハナ、ヤマウツギ、箱根花とも言うそうです。



清水台・旗の台6丁目の路地に入ると、遠くに薔薇が輝いて見えました。5月のバラの季節、今、一番の見頃ようで、その後も、あちこちで見かけました。



薄緑の木に、白い釣鐘が下がっています。エゴノキです。花期は6月頃で、この清水台では、各所で見られました。花は後、雄しべだけ残して、釣鐘の部分がすっぱりと落下し、木の下は、白い釣鐘の世界になります。

果肉はサポニンを含んでいて、口にすると「えぐい」そうで、名前の由来のようです。

有毒なので、川に流して、魚捕りにも行われたそうです。



荏原7丁目、小山八幡神社に辿り着きました。ミカンの花が咲いていました。この

横の民家に、ユリノキがあるので期待していましたが、昨年、大きく剪定された後の最初の緑、花は未だに付きませんでした。



一路、小山巖島神社へ、大勢の人たちが池を見守っています。テレビ局の取材も来ていました。

雛は大きく育っていましたが、数は少なくなっています。一羽は、見物の人があげた餌を亀と取り合いをして、亀の犠牲になったそうです。同じ様に傷ついたのが一羽、貧弱したのが一羽、命を落としたそうです。更に、3羽行方不明とのことでした。つまり、12羽の雛は5月の連休中に6羽になったそうです。



帰り道、延山通りに面したお花畑では、シランが咲き誇っていました。

平成20年5月15日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年06月03日

小満の頃

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年06月05日

気温が高い日が続き、次々と花々が変わっていきます。気になっていた花々を追ってみました。コースは旗の台から小山巖島神社に向かう道です。



皐月もあちこちで、咲いています。細い路地の入口では、皐月の向こうは、緑いっぱいでした。



バラが見頃になっていた頃から、紅いブーゲンビレアがいつもの所に咲いています。開花してから日が経っていますが、まだ、元気でした。バラは年4回の開花ですが、ブーゲンビレアは5月と11月頃の開花です。



旗の台6丁目では、今年も、クリーム色のブラシです。



ユキノシタ科のズイナ、小さな可愛い花が多数付いています。穂の長さは5~10cmほどです。実は、この花木を見ることが出来るのも、今年限りのようです。数多くの花木があるこの民家も、改築が予定されています。



小山の家の前には、色々な作物、野菜等が鉢植えで栽培されていて、麦が、穂をいっぱい膨らませていました。

平成20年5月26日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年06月05日

18階までヤモリがまた来ました。

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年06月12日

西大井駅前のマンション18階ベランダの植木鉢の下にまたヤモリが来ました。このマンションに20年住んでいますが、これでベランダの植木鉢の下への来訪は5匹目です。

隣の西大井広場公園からマンションの壁をよじ登ってくるのですが、最上階の18階まで約50mもあり、十数センチの小さなからだなのにその生命力に感心します。

ヤモリは家守、宮守と書き、ハエなどの害虫を捕食してくれるので縁起の良い生き物といわれています。

今回も撮影して公園にリリースしました。



写真は18階ベランダに登ってきたヤモリ（2008年6月9日撮影）

●環境記者 杉山邦夫（記者◆070101）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年06月12日

荏原神社のかつば祭り

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年06月16日

南品川の鎮守、荏原神社では、恒例の例大祭、南の天王祭が、5月30日～6月1日まで行われました。通称「かつば祭り」と呼ばれるこのお祭りは、最終日の日曜日、お台場海浜公園で海中渡御が行われます。江戸時代から続くこのお祭りは、海岸線が埋め立てられてからは、お台場海浜公園の砂浜で行われています。海の中で拾われたお面が奉納され、そのお面を御神面として、豊漁と海苔の豊作を祈願し、海中を浴びさせるお祭りです。



連日の雨も止み、午前10時、暑い日ざしとなったお台場海浜公園には、大勢の人たちが、御神面を付けた神輿の到着を待っていました。午前10時半、品川ふ頭の方角に、警備艇に続いて、荏原神社の旗をなびかせた船を先頭に10数隻の船団が現れました。天狗面の猿田彦を乗せた神社の船、神輿を乗せた船、担ぎ手、見物客等を乗せた遊漁船、屋形船が続きます。



水辺に着くと、神社の旗が降ろされ、担ぎ手たちも次々と海に入ります。船の上では、神輿の前で御祓が行われ、紙ふぶきが撒かれて、海の中では、担ぎ手たちが、手を差し伸べて、神輿を待ちわびています。

10時40分、太鼓の合図で、神輿は動き、笛・太鼓が鳴り響く中、海の中の担ぎ手に渡されました。神輿が船から降ろされる様は、勇壮なお祭りの始まりです。水辺に降ろされた神輿は、海岸を、西へ、東へと移動します。砂浜の観客も一緒に移動します。



海岸を埋め尽くした船は、何時の間にか、25隻ほどになっていました。海からの見学も大変なようです。船で、砂浜でお囃子がお祭りを盛り上げていました。



神輿は、お台場海浜公園の砂浜を2往復しました。

11時50分、神輿が高々と上げられ、太鼓が打ち続けられる中、船に揚げられ、太鼓の終わりと共に、海中渡御の終了です。

船に神輿を上げる様は短い時間ですが、無事に終わりまた来年のお楽しみという名残惜しい、海中渡御最後の盛り上がる感激の瞬間です。

神輿を乗せた船は、船団の組み、帰路に着きました。



海中渡御を終えた神輿は、氏子町内を廻り、午後3時半過ぎに、神酒所に戻り、御神面は、大神輿に移されました。

御神面を付けた大神輿には、伝統の甘酒が奉納され、午後4時、大神輿の御祓が終わると甘酒が振舞われ、いよいよ、御神面返還の渡御です。



荏原神社の旗を先頭に、大神輿は荏原神社に向かいました。



午後5時、神社に着いた神輿から、御神面が取り外され、荏原神社神職に引き渡され、三本締めで海中渡御の全行事が終了しました。年に一度のしながわ百景でした。

*品川区は海に面していますが、埋め立て等により、誰もが自由に散策できる砂浜を失ってしまいました。漁業権だけが、海の権利ではありません。海は、皆のものです。このお祭りでも、船を使わなければならないという大変な損失を生じています。大自然は、むやみに作り変えて欲しくないものです。

平成20年6月1日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年06月16日

紫陽花を訪ねて

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年07月08日

今年は6月2日に入梅宣言、本来は11日頃なので10日も早い入梅です。といっても、小雨の日、晴れの日と繰り返して、5～6年前から起きている空梅雨と同じような気候です。花たちは、気温に敏感です。路地の紫陽花も、場所によっては既に見頃を過ぎてしまったものもあるようです。本来、梅雨本番といわれる6月下旬の花、今月末までは、静かに咲いて欲しいものです。小雨に濡れる紫陽花が絵になるのですが、今回は、梅雨の合間の晴れの日紫陽花を訪ねながら、路地や公園の花々を楽しみました。

旗の台の路地、近所のザクロもあちこちで赤い花がいっぱいになりました。



ナツツバキも、ツバキとしては小柄な白い花を次々と付けるようになりました。今年は、蜂が少ないようです。



路地を曲がると淡い青色の紫陽花、その隣では、濃いピンクの紫陽花、このところの雨で急に花が大きくなって、今にも枝からこぼれそうな感じで咲いています。この路地は、以前から紫陽花の多い所です。紫陽花はガク紫陽花が色々変化したものと言われています。花の色は、土や、開花してからの日数で変わるといわれていて、その変化を楽しむ事が出来る花です。特にガク紫陽花のガク片は、秋場にも見られます。

紫陽花の向かいの生垣に、萩が咲き始めていました。夏萩（宮城野萩）とのことでした。萩は季語が秋、秋と言っても立秋は8月5日頃、6～7月に咲き始めるようです。



赤紫のガク紫陽花、小さな花が満開になっています。



旗の台5丁目の商店街、三間通りでは、おたふく紫陽花が咲いていました。おたふく紫陽花は、ガク片の縁が内側に盛り上がっているもので、その形状から付いた名前のようなです。旗の台の住宅地に毎年見られましたが、昨年、その民家が人手に渡り、そこでは見られなくなって、懐かしく思いました。

立会道路、旗の台3丁目では、民家の紫陽花も遊歩道を飾っています。

遊歩道から路地に戻ると、毎年咲き誇っている大きな紫陽花です。

更に進むと、トケイソウが咲いていました。この近くには他にもありますが、開花したのはここだけです。

西中延、延山くすのき公園には、色んな花がありますが、多くは、近所の人によるボランティア花壇です。紫陽花の横で、手入れする姿が見られました。



近くの中延3丁目の民家、白い、ホザキナナカマドが咲いていました。バラ科の落葉低木、小さな白いバラが、幾つも並んでいるといった感じです。

午前中の散歩もここまで、帰り道、中延5丁目では、赤紫、白、濃い青と紫陽花が並んでいる所もありました。



立会道路、荏原町では、数少ない紫陽花、近所の人が育てているようです。

旗の台小学校の民家、足元に、色鮮やかな真赤な紫陽花です。

荏原第五中学校前の桜の木の根元、ジャノヒゲが開花していました。ジャノヒゲは花壇等の縁を補うものですが、白い可愛い花を付けます。

平成20年6月13日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年07月08日

夏至の頃

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年07月10日

●旗の台・豊町

入梅後、晴れて気温が高い日や雨が降り気温が下がった日等、本来の梅雨と違った季節が続いていますが、旗の台の民家の家庭菜園では、思い思いの収穫が期待されているようです。



ある民家では、例年、ぶどう棚にカボチャを栽培しています。熟したカボチャがぶどう棚にぶら下がっている事もしばしばで、近所でも話題のカボチャです。今年は、先ず、棚の柵に熟しました。

ぶどう棚には、ぶどうが実をつけ、カボチャの花も咲いていました。そのうち、ぶどう棚にぶら下がったカボチャが見られると思います。大地に広がる畑が無いのが実情、苦肉の策のようです。

その近くでは、鉢植えでミニトマトの栽培です。幾つも鉢がありました。

旗の台駅近くでは、キウイフルーツも大きくなりました。

路地の花は、紫陽花が満開状態になり、見頃になったものは、次々と姿を消してしまいました。切り取られて、家の中に飾られるようです。そんな折、道端では、コヒルガオが姿を見せるようになりました。



ねむの木の庭でねむの木が開花した頃、豊町の路地では、半夏生の花が開花しました。半夏生は、名前の通り、7月初の半夏生の頃に開花する花ですが、昨年同様、2週間以上も早い開花になりました。花の季節の上では、梅雨明けが宣言された事になります。異常気象、温暖化が進んでいることをより明確に示す花です。

●ねむの木の庭



ねむの木が開花してはや一週間、梅雨明けを予告する花なのに、雨が降り続き、気温が下がった日が多い中、その後の開花状態が気になっていましたが、開花してからは連日のように咲き続けているとの事でした。

花数はかなり多いのですが、緑の葉が昨年よりもかなり多くて、目立ちにくくなっています。

それでも、アゲハチョウが次々と花の蜜を求めて飛び交っていました。

撮影時間はお昼頃、落花していた花々はまだ綺麗なピンク色が目立っています。日没の頃に開花し、昼間に落花する命の短い花です。朝早いほうが、より美しいピンク色を楽しむ事が出来るようです。

ねむの木の蕾は幾つも見られました。次々と咲くと思いますがピンク色が美しいのは夜、そんな時間に、開花したばかりの花を観るには、月明かり等の照明が欲しくなります。

庭園では、紫色の刺の付いたイチゴのような花、エリンギウムが緑色から紫色に変わりつつありました。

紫色の小さな花をつけたロシアンセージも次々と花をつけています。

赤色のアスチルベも、小さな花を少しずつ増やしています。

ギボウシもありましたが、ねむの木の庭独特の黄色っぽいものと違って、池田山公園のものと同じ様です。

ナデシコは満開状態、連日の雨に疲れたような咲き具合でした。



道路沿いのルピナス、雨と気温の低下等で、変形したようです。

●池田山公園



緑が濃くなった池田山公園、今、紫陽花が見頃になっています。遊歩道脇のいろんな紫陽花もありますが、池の周りのガク紫陽花が、何ともいえない雰囲気になって

いました。



花菖蒲、睡蓮等も、紫陽花と共に都会の里山を飾っています。



ギボウシも咲き始めました。

池の辺の栗の木も、数多くの花が付き満開状態でした。緑色の刺の付いた実が、そのうち、池の辺の周回路に落下してきます。

斜面の細い山道には、ネジバナが多数見られました。

平成20年6月24日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年07月10日

品川区の一環境記者からのお願い中央海浜公園にて

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年07月10日

品川区は東京都内においても海を持つ数少ない区です、海に直接面しています。埋立てで昔のような砂浜はなくなりましたし、直接海で遊ぶ事も勝手には出来なくなりました。

そんな中で、京浜運河の中とは云え中央海浜公園は砂浜があって、直接、水に触れられ、海の生き物と遊ぶ事が出来ます。

私も何度も中央海浜公園へ貝の観察に行きますが、最近とても気になる事が有ります

それは砂浜に点在する石がひっくり返されてそのまま放置されている事です、海の生き物は自分の身を守るため石の下等に隠れて棲んでいるものも多く見られます、又一時的にアサリの稚貝などは、石の下で一時期をすごしてある程度大きくなってから砂地の方に移り棲みます、また石の上側にはその生活様式を持ったコウロエンカワヒバリガイ、イガイダマシ、マガキ等が棲んでいます、石の下にもカニ等が隠れ潜んでいます。

でも、良く見ると石の上下にはもっと色々な生き物が棲んでいます。

この石をひっくり返したままにすると、石の下の生き物は、体の内部に持っている水分の乾燥と日光の光で死んでしまいます、又石の上に棲んでいた生き物は砂の中に埋まってしまい死んでしまいます。石の上下には、それぞれの生活に応じた生き物が棲んでいます。



写真は、ひっくり返された石にたくさんのアサリの稚貝が付いている所の写真です。

約10mmから下の小さなアサリです、このままでは直ぐに死んでしまいます。

ひっくり返した石は、直ぐに丁寧に元の状態に戻せば運河の生き物の生態系の保全もそして、なお一層のアサリの潮干狩りを楽しむ事が出来ると思います。

●環境記者 青野 良平 (記者NO.070103)

青野さんのHPアドレスがかわりました！

→[東京都品川区京浜運河の貝](http://keihinunga.web.fc2.com/) (http://keihinunga.web.fc2.com/)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年07月10日

紫陽花日記

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年07月14日

アジサイの咲き始めから最後まで観察したのは平成13年、当時に比べ梅雨らしくない雷雨だったり、気温が突然上がったり、異常気象のこの頃です。

今年のアジサイの蕾は5月半ばに観られ、その後の咲き具合を見てみることにしました。

●一般的によく観られる丸いアジサイ

【5月22日】



【5月24日】



最初は5月22日、すでに5月半ばに蕾が出来ていたのので、場所Bでは、ガク片が出始めていました。

【6月3日】



【6月7日】



【6月13日】



【6月13日】



くなり、目方を支えていました。もともと、の上の方に、小さなた。下のほうで、水を

色が褪せて、雨で大き
きれず、葉の中に沈ん
空色のアジサイ、垣根
空色のものがありまし
吸い過ぎたのかもしれ

ません。

●ガクアジサイ

【5月24日】



【6月13日】



【6月17日】



【6月19日】



【6月19日】



【6月23日】



は、ガク片の中央
ます。

ガクアジサイは、最後
にも小さな花を咲かせ

こうして、以前と同じアジサイについて、咲き具合を観察すると、平成13年のときと、殆ど同じでした。今年の梅雨は、雨や気温の不安定な日もありますが、アジサイにとっては、大きな変化は無かったようです。ただ、今年は一度に大量の雨が降るので、大きくなりすぎ、色がやや薄いアジサイが多いのは特徴のようです。

平成20年6月25日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年07月14日

第6回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2008年07月18日

平成20年7月11日（金）、第6回環境記者情報交換会が8名の環境記者の出席のもとで行われました。

環境問題について、また品川の環境についてそれぞれの思い入れから熱い討論が繰りひろげられました。

今回は皆さんの環境に関わる取り組みや経験、あるいは考え方について、フリートーキング形式で会を進行しました。



●環境記者から次のような話があり、それぞれについて活発な質疑応答がありました。時間の経過と共に会は次第に盛り上がり行きました。

- ・虫の生息や緑の保存など、環境問題を考えながら活動している。
- ・花の観察を続けているが、花の咲き具合から温暖化を感じている。
- ・マンション18階までヤモリが上がってきた。こんなところにも自然が。
- ・太陽や雨など自然の恵みを受けながら自宅の屋上に屋上菜園作りをしている。
- ・所属する様々なグループ活動の中で環境に関わる話をするところがあるが、情報の共有化や環境に良い活動について話し合っていきたい。
- ・海岸に流れ着く丸くなったガラスの破片を使って円錐形のランプシェードを作っている。
- ・川の浄化に取り組んでいる。
- ・ごみ拾いをしてくれる子供がたばこの吸殻を拾うことに忍びなさを感じている。もっと大人が心がけなければならない。



●立会川の浄化についての紹介があり、他の複数の記者からもこの話題紹介の準備がありました。川の浄化についての関心の高さが伺われました。

ハイテク浄化も良いが、生活排水問題の改善やヘドロの取り除き、川の流水化を進めることが必要だとの意見がありました。

生活排水は水質汚濁の最大の原因であり、事務局としてはこの問題について情報交換会のテーマとすることも検討したいと思います。

●記者の皆さんの熱のこもった発言、意見交換があり、終了予定時間を超過してしまいました。

次回は少しテーマを絞ってフリートーキングをしたいと思います。

以上

カテゴリ : ◆情報交換会

投稿日 : 2008年07月18日

夏越の大祓

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年07月31日



雨が降ったり止んだりの梅雨らしくない日々が続く中、6月も末、今年も半年が終わりになります。昔、宮中で行われたと言われる、12月と6月の晦日の祓えの神事、人の犯した諸々の罪やけがれを祓い清め、幸福と繁栄を迎えるための大祓の儀式が、今では、各地の神社でも行われていて、6月は夏越の大祓と言い、神社の社前で茅の輪くぐりが行われます。茅の輪くぐりは、茅（ちがや）という野草で輪を作り、腰の上にかけ、病気を祓う事が出来たという茅の輪の信仰から、始まったと言われています。茅は、その花穂から、火打石等の火を付ける火口に用いられたという草ですが、今は見かける事の少ないものです。茅の輪くぐりは、正面よりまず左にくぐり、右、左と計3回くぐります。8の字を描くくぐり方です。品川の西の台地、小山八幡神社では、6月28日に行われました。本殿に続く石畳中央に茅の輪が用意され、三々五々訪れた人たちは、思い思いに茅の輪くぐりを行っていました。



午後5時、神職を先頭に、氏子、参拝の人が、茅の輪をくぐり左へ廻り、また、くぐり、右へ廻り、もう一度左へくぐって廻り、本殿に向かいました。



本殿では、大祓の神事が始まりました。大祓の際、神社では、氏子から形代（人形）を預かります。人の身代わりといわれる形代は、河や海に流して清めたり、聖浄の地で、御浄火にふして、罪咎消滅の祈願が行われるそうです。大祓が行われている間、境内には、本殿に参拝だけの人や、犬の散歩の人も見えましたが、流石に犬は茅の輪をくぐってくれませんでした。お父さんが説明する中、楽しみながら、元気よくくぐる子供たちも居ました。昔は、茅の輪や夏越に関する歌を口ずさみながらお参りをしたそうです。

平成20年 7月 1日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年07月31日

目黒線沿いを歩く（地下化2年後）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月01日

品川区の西端を走る東急目黒線が地下化になったのは平成18年7月2日、線路の撤去や、駅前の整備等、その後の様子を見て歩きました。



小山7丁目にあるカルガモの郷小山巖島神社では、成長したカルガモたちが、旅立ちを待ちながら、のんびりと過ごしていました。その直傍に、以前はガードだった所が、エレベーター付きの歩道、自転車道に分かれ、車の通行は、隣の旧小山4号踏み切りになります。急坂のため、直進は出来ません。旧洗足ガードの道と繋がっています。



西小山駅前、小山の弁天通りは、昔の街並みが突然消えたような感じでした。自転車がいっぱいあります。西小山駅は、ビル化していて、囲まれた歩道が通じています。駅前広場の工事が予定されているようで、自転車は、駅前駐輪から、立会道路側に移動になったそうです。



西小山駅は、昔の立会川、今の立会道路に面し、周りより低い位置にあり、駅は必然的に、高架で、駅脇の道路もガード下でした。立会川が駅の横になるので、新駅は、立会川の下ということになります。ガードが取り除かれた立会道路、昔の面影はありません。西小山駅の北側にある荏原第六中学校前は、南側が立会道路に続く駐輪、駐車場になっていました。



中学校の塀には、今年も、「あいさつストリート」の看板と共に花が飾ってありました。昨年見えなかった中学校前の北側は、遊歩道の工事中でした。



昨年は、工事の様子もあまり見えませんでした。今年、遊歩道工事が進められていることが判りました。ただ、西小山駅周辺、武蔵小山駅周辺は、自転車利用の多い所、中途半端な駐輪場では、違法駐車という言葉が出てしまいます。違法駐車を作らない駐輪場の整備が必要だと感じました。

平成20年7月1日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月01日

サンゴジュの赤い実を尋ねて

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月05日

旗の台の自宅の二階から、お隣の赤い実をした木が見えます。今まで、殆ど気にしていませんでしたが、サンゴジュです。

現在、民家では見かけない木なので、話を伺うと、「何処にでもあるんではないですか」とのこと。以前は、普通にあったようです。



サンゴジュは、スイカズラ科の落葉高木、暖かい地方の海に近い丘陵地に自生したそうで、庭木、垣根に使われたそうです。庭木、垣根での役目は防火用。何処にでもあったというのは、防火用として植えていたということになります。現在は、建ぺい率とやらで、庭木どころか庭の無い家が当たり前、密接して家を建てるのが常識化しています。サンゴジュが見られるとしたら、昔からの民家のようなのです。日本人の智恵、大切にしたいものです。

戸越公園では、人工の滝から池に流れ込むせせらぎで、子供たちが遊んでいました。

池の周りには、6月に開花していたサンゴジュがあります。池の南端では、身近に見ることが出来ます。真赤ではありませんが、色付いていました。日当りの良い丘の途中、池に架かる橋の袂、一寸離れてみると、珊瑚がぶら下がっています。東屋から見る池の奥では、色付いているのが感じられる程度で、赤色が目立つには未だ、時期が早いようでした。一寸高い位置になりますが、日当りの良い朝には、濃い緑の中に、赤い塊が出現します。



真赤なサンゴジュには会えませんでした。緑化と防火に役立つサンゴジュ、もっと増えてもいいような気がしました。

平成20年7月31日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月05日

一斉打ち水

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月11日

異常気象による真夏の街中の異常高温から、少しでも涼しくと3年前から始められた打ち水大作戦。商店街では子供向けの小型のジョウロを準備して、大人たちだけでなく、子供たちが中心に行われるようになりました。東急池上線荏原中延駅付近から西に伸びる、こじんまりとした荏原中延昭和通りは、舗装道路の焼き付く熱さと照り返しで、夏の真っ盛りです。



商店会では、通り中ほどにテントを構え、一斉打ち水の準備です。気温、路地温度の測定等おおわらわでした。幼児用ビニールプールには、満タンの水が準備され、子供たちはジョウロや水鉄砲に水を詰めます。午後3時の合図で通りに並んで子供たちの手に持つジョウロや水鉄砲から、一斉に水が撒かれました。



15分ほどで、打ち水も終わり、かき氷のサービスもありました。水鉄砲やエコバックのお土産もありました。

この日の陽射しは強く、25分もすると、びしょり濡れていた地面も、すっかり乾き、元の暑さに戻ってしまいました。



通りに面した路地でも、民家で打ち水を行ったようで、緑に包まれた路地はひんやりとしていました。気温を下げるには、緑の木陰が一番だと思いました。



荏原中延昭和通りは、日当たりの好い通り、冬場には暖かくても、夏の暑さには弱い通りです。路地にみかけたように、緑が救ってくれます。路地樹を植える事も考えていいようです。車や、ねぶたイベント等に支障があるとの反対意見も出るかもしれませんが、打ち水の効果を増すには必要条件のようです。なお、戸越銀座通りは一部ですが上空からの乾いた霧ドライミストで、平和坂通りは保水性舗装で効果を上げています。

平成20年8月2日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月11日

目黒川と京浜運河

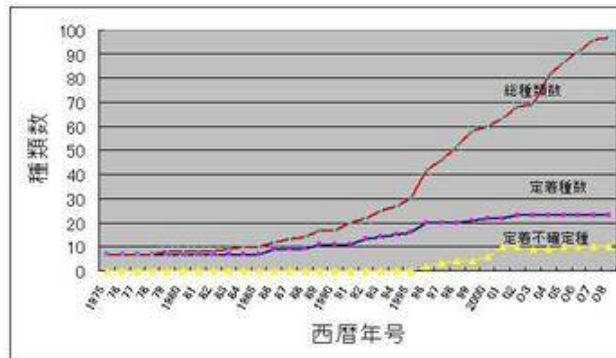
カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月15日

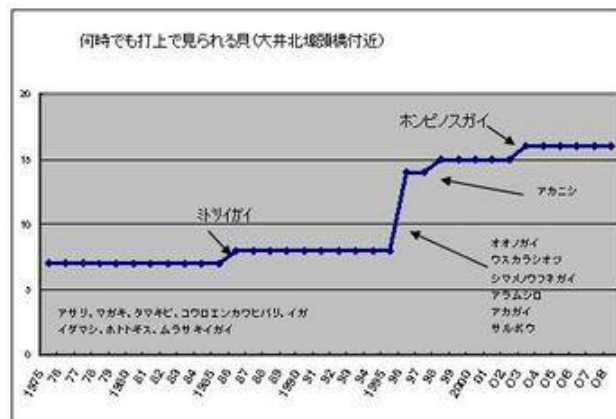
1975年から京浜運河に棲息する貝の観察を始めて33年、現在も続けています。運河の中、観察を始めた頃は僅か7種類の貝しか見られませんでした。最近は見違えるほど色々な生き物が見られます。今回の報告は、「川がきれいになれば海もきれいになる」という現象を捉えた1996年の出来事についてです。観察を開始した当初は砂浜に打ち上げられる種類も少なく、釣り人が釣上げる貝で棲息を確認していました。

1995年までは運河の中の貝は非常に少なく、記録された種類は20年間で30種(2008年8月現在は97種を記録)、定着種は15種<グラフ1>でした。その内で砂浜に打ち上げられた貝8種<グラフ2>と砂浜に打上げられない7種(釣り人による)が見られました。

●2008年8月現在までに記録された種類のグラフです。



●砂浜に打上げられる貝で、常時見られる種類(定着種)だけのグラフです。1996年に大きく増えていることがわかります。



(1996年の変化

時)

1996年までは、一年に1~2種類が新たに記録されて行く感じで、このままでは私が観察を続けられる間に50種を記録出来るのかなと思うほどでした。

ところが1996年になると一挙に12種類もの貝が新たに見られました<グラフ1>。また今まで釣り人によって確認できるだけの一部の貝が砂浜に打上げられる様になり、普通に東京湾奥で見られる種類の貝が運河の中に現れ出しました。これは観察を始めて以来約20年間において初めて運河の中で見る大きな出来事でした。これでやっと東京湾奥の他の場所と棲息形態は同じようになって来た感じを受けました。現在もこの時に見られた種類は生存しています。

特に印象に残る貝では、1979年に1個だけ見つけたクレハガイです。自然の海岸

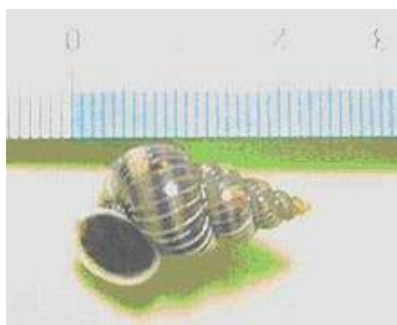
でもなかなか見つけることが難しい貝で、レッドデータブック（絶滅のおそれがある希少な野生動植物をリストアップした資料／国際自然保護連合）でも希少種とされています。最初は何故この貝が運河の中にいるのか、信じられませんでした。そしてこの貝が運河で再び見られたのが1996年だったのです。実に17年ぶりに見つかった貝、そして2000年からの定着につながって行きます。都会の中でこんな貝が棲息しているのも驚きです。

●クレハガイ

2個体目が1996年に見られ、
した
2000年から数も増えて定着しました

●キセワタガイ

1996年から見られだしま



1996年、この現象が何故起こったのか最初は全く分からず、何か原因が無くてはこんな現象が起こるはずは無いと考えていましたが、その疑問の答えが1995年から大田区の呑川(のみがわ)に下水処理水を流し始めたとの新聞記事でした。その中に目黒川にも同様に流し始めたとの内容があり、これが1996年の変化の答えでした。それ程1996年の変化は過去20年間の観察状態と違っていました。またこの年を境にハゼの酸欠による浮き上がりが減り、ハゼの酸欠からの回復までの日数も以前の一週間から数日に短くなりました。

目黒川への下水処理水の放流は京浜運河に良い影響を与えてくれましたが、やはり川は流れが無いといけない、そんな印象を強く受けました。

一方、家庭排水の影響が大きいとよく聞きます。流しに流す水を少しでもきれいにし、頂ければ更に運河の水もきれいになり、赤潮や大雨の時の魚の酸欠ももっと減らす事が出来ると思います。皆さんのちょっとした努力で運河の「住民」(*)も暮らし易くなるのではないかと考えています。

* 運河の生き物を品川区の「海の住民」と呼んで観察を続けています。

平成20年8月10日

青野良平（記者NO.070103）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月15日

立秋の頃

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月19日

立秋を迎えたといっても、32℃以上の極暑の暑さと25℃以上の熱帯夜が続いています。夏至も過ぎた7月初から、昼間の時間も、感じるほどに少しずつ短くなり始めましたが、この夏はエベレストでも氷が溶ける事故が発生するほどに、地球は暑くなっていて、昨年同様、残暑の季節は長引きそうな感じです。冬の気候が一月少なかったので、夏が一月多くなりそうです。つまり、本来の秋は一月遅れになりそうな気配です。

旗の台の路地



明け方6時、気温は早くも27℃です。路地の朝顔の様子を見て廻りました。このところ、二日に一度咲いていたホテイアオイが薄紫の花を付けていました。暑い陽射しの下よりも、朝は、清々しく見えました。ミズアオイ科の水生耐寒性（水温3℃以上）の多年草で、ウォーターヒヤシンスとも言うそうです。この民家では、古い火鉢に水を張って、睡蓮と共に育てています。水を浄化する作用があるとのことで、観賞用の魚を入れた水槽にも用いられています。立会川の浄化にも用いられましたが、淡水の川でないので、すぐに枯れてしまいました。花は一日花、写真を撮るには、毎日の観測が必要です。



朝顔の路地です。この路地は、朝顔を育てている民家が集まっています。朝顔は、夜中にかけて、気温が25℃以下になり始めた頃から少しずつ開き始め、夜明けの頃全開するそうです。見頃は、夜明けの頃になります。日が昇り気温が上がってくるとしぼみ始めます。梅雨明けの夏の花として親しまれていますが、開花温度25℃はコスモスと同じで、秋には一日中咲き続けます。コスモスは日持ちしますが、朝顔は一日花です。



数年前から、25℃以上の熱帯夜が多くなって、朝顔の発育が悪く、育てる民家も非常に少なくなりました。蔓だけ伸びて、花が咲かないそんな状態が、毎年続いたら、諦めが出るようです。異常気象は、花の生育だけでなく、人の夢も奪っています。

ねむの木の庭



午前10時過ぎ、既に30℃を越えています。バラもユウスゲも終わっていました。大きくなったねむの木の木陰にホッとしますが、芝が植えてある庭園の一部を除いて大半は石畳、熱気がこもって、冷やすのに大変だそうです。また、熱気で花の育ちも好かないそうです。なお、訪れた人たちには、花の少ないこの時期、池田山公園の木陰を勧めているそうです。全面芝生になれば、涼しくなりそうです。



白いナadeshikoが咲き誇っていました。この庭園では、ナadeshikoはどうも気まぐれのように、何時が正規の花期なのか判らないくらい、咲いては休みの繰り返しです。ナadeshikoは秋の七草、黄色のオminegeshiも秋の七草です。オminegeshiも花数は少しずつ増えている感じです。気温が下がり、「秋！」という感じが出れば、黄色い塊になります。

池田山公園



庭園に入るとホッとするほどの木陰の涼しさを感じます。この時期、管理事務所前には、朝顔を咲かせています。涼しさのおもてなしです。また、東屋付近は、カノコユリが準備され、暑さへの疲れを癒してくれます。なお、今年は、東屋付近の百日紅、花数が少ないようです。



木陰は、東屋だけでなく、砂場のある広場も、一休みできるようになっています。涼しさはやはり池周りです。この日は白い睡蓮が咲いていました。



池の辺の斜面には、栗があちこちに落下していました。池田山公園は栗拾いの季節のようです。睡蓮、鯉、栗と木陰、池周りの涼が待っています。

平成20年8月8日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月19日

「大仏の千灯供養」(養玉院・如来寺)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月19日



西大井の大仏、荏原七福神布袋尊で親しまれている養玉院・如来寺で、迎え盆恒例の行事、千灯供養会が行われ、緑の木々に囲まれて、都会の明りを逃れた境内は、蠟燭と提灯の明りで、荘厳な雰囲気になりました。

午後6時半、如来堂、五智如来坐像の前で法要が行われ、その蠟燭の火が、次々と蠟燭に移され、訪れた人たちにより、提灯の蠟燭が灯されました。7時頃には終わり、蠟燭の境内になりました。初めて見学を訪れた人、電球でなく、提灯一つ一つの蠟燭が灯される様子を見て、感歎していました。



開かれた正門にも提灯が灯され、通用口から大仏殿（如来堂）まで、提灯の明りが、導いてくれます。



如来堂の左右には提灯が、階段脇には蠟燭が並べられて足下を照らしています。



如来堂から見る境内は、昼間の境内と全く違った様相で、煌びやかでもあり、荘厳な雰囲気です。去年は、新月でしたが、この日は、十三夜の一日前、木々の間から月明りも、薄っすらと射していました。



境内の西側の高座には、無量光殿があり、その前の広場では、提灯を灯した人たちの懇親会が行われていましたが、この広場から見る光景は、重厚さを感じる蠟燭の明りによる庭園です。



千灯供養は、全国でも数少ない行事です。品川の住宅地の一角で毎年行われ、都会である事を忘れさせる蠟燭の明りです。テレビやネオン、広告塔の明りを忘れ、先祖を想いながら、昔ながらの蠟燭の明りに浸るのも、この異常気象の中、心の癒しになります。

平成20年8月13日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月19日

猛暑の中の公園

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月07日

立秋も過ぎ、やがて処暑、暑さもこれまでという季節であるはずなのに、猛暑と呼ばれる日々が続いています。路地の花々も少なく、蝉の声も時折しか聞こえてきません。日本の残暑の候は何処かにいってしまった感じです。



中延にある立会道路遊歩道、暑い陽射しの中、一見、緑豊かな公園通りです。立会道路は、立会川に蓋をして、そのコンクリートの上に土盛をし、緑の遊歩道にしたものです。言わば、大きな屋上庭園と同じです。木々や草花の咲く土は、大地とは繋がっていません。雨が大量に降れば、雨水は溢れ、何時までも降らなければ、乾く一方なのです。大地に繋がってれば、大地が吸収し、大地が、水分を補ってくれます。



この5年ほど前から所謂雨の降らない空梅雨が続き、コンクリートの上の土には、水分の不足が続いています。雨が降らないのだから、雨水タンクを設けても、数日で終わってしまうほどしか貯水できそうにもありません。ある公園では、散水器を使って水撒きを行っています。水を大切にといっても、水が無ければ、緑は育ちません。立会道路は、年中散水が必要な所です。屋上庭園と同じです。地元の人が気軽に出来るように、散水設備が必要と感じました。川に蓋をした、その代償が必要です。この日、長閑に見えていた公園通りでは、このように枯れてしまった木々の撤去が行われていました。枯れてしまったのは、初から公園作りのやり直しです。大地に繋がった緑が恋しくなります。



立会道路も西大井付近は車道と歩道、緑の少ない所ですが、西大井原っぱ公園は通りに面した公園、大地に繋がった公園です。緑豊かな木陰で、掃除をする人たちが居ました。

ヤマモモも赤い新芽を付けていました。中延の立会道路とあまりにも大きな違いでした。

平成20年8月20日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月07日

蒲、古代蓮

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月07日

残暑に負けずに咲いている花々に出会いました。

蒲

西大井にある養玉院如来寺では、8月に蒲の穂が見られます。鐘樓の横に特別に栽培してあります。



今年は、昨年よりも気温も高く、雨も少なく、蒲にとっては災難のようです。風も少ないこの頃なのに、少々傾いていました。蒲は大形の湿性植物で、本来、池や川の縁に生育するもので、庭で生育するには苦勞があると思います。茎の先端の茶色い塊が花穂、小さな花の集まりです。花穂の上部が雄花、下部が雌花です。実になった果穂は、蒲線と呼ばれ、火打石の火口（ほぐち）として使われたそうです。葉や茎から、簾や、むしろを作ったので、御簾草とも呼ばれたそうです。蒲といえはやけどを治したいなばの白兔、蒲の花粉には、止血作用があり、傷薬として使われたそうです。

古代蓮

蒲を撮影に出かけた時に見つけましたが、お昼頃だったので、次の日の朝出直しました。



古代蓮は、かなり昔、大賀蓮とも呼ばれたほど有名だったのを思い出しました。2000年程前の地層から大賀一郎博士により見つけられた蓮の種が、博士の手により花を咲かせ、蓮の命の強さを教えられたものです。1951年（昭和26年）の事だそうです。花が咲いたのはもっと後のような気がします。その後、同じ様に、古い地層の色んな場所でも種が見つかり、栽培されているとの事です。境内の高座の広場、養玉院創立当初の本尊である阿弥陀如来を安置してある無量光殿の正面、新幹線も見える、展望のいい場所に、大きな鉢が置かれ、大きくふわりとした、淡いピンクの花が咲いていました。古代蓮と表示してありました。



古代蓮も蓮、花も終わりガク片が落ちると、緑色の花托（ガク片が付いていた台座）が残ります。花が終わった花托もありました。花托は変形して、蜂の巣のようになり、その中に、果実が入っています。



蓮の根はレンコンとして食されているものです。古代蓮も食べられそうですね。今季は、ほかに蕾が見当たらず、後数日で、養玉院如来寺の古代蓮の花舞台は終わりを告げそうです。初めての出会いが、もう終わりというのは残念ですが、来期はもっと早く、開花を感じ取りたいと思います。

平成20年8月21日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月07日

養玉院（如来寺）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月08日

西大井にある養玉院如来寺は、帰命山養玉院如来寺といい、明治41年に現在の地に移転してきた高輪の如来寺と、大正12年に下谷坂本の養玉院とが併合したもので、「高輪の大仏」と呼ばれていた如来寺の木造五智如来坐像は、西大井に移転後は、地元で、「大井の大仏」として親しまれています。



西大井の大地を下った、大田区山王との境に山門があります。



山門の直後ろには、鐘楼があります。よく見ると、鐘撞きの棒に、紐が付いていません。時を刻むのは、自動になっています。お昼には、時報と共に、棒が動き始め、一瞬のうちに鐘を撞きます。



緩やかな坂道を登りきった所は境内の広場、右側に明王堂があります。



境内の広場の左手は本堂、正面は如来堂（大仏殿）です。石造の置物と緑の静かな木陰の庭園です。



如来堂の階段を上がると、正面が大日如来坐像です。五体の木造の大仏が、右から、薬師如来、宝勝如来、大日如来、阿弥陀如来、釈迦如来と並んでいて、その中でも薬師如来坐像は寛永12年（1635）の造立で、他は消失後、延享3年（1746）頃に再興されたものだそうです。品川区の有形文化財になっています。如来堂も、引っ越しの際に、現地にあわせて縮小したと言われています。また、中央大日如来坐像の下には、荏原七福神の布袋尊が祀ってあります。



本殿の向かい広場の端に高座があります。養玉院創立当初の本尊、阿弥陀如来が祀ってある無量光殿が広場の西側にあり、北側、東側には住宅街が広がっています。新幹線から見える森の中の広場です。なお、この夏は、古代蓮が栽培してありました。

- ・ 養玉院如来寺は文化財の宝庫、品川区文化財公開、荏原七福神めぐり等でお目にかかれると思います。
- ・ 梅が見頃の2月15日に行われる涅槃会法要では、東京都指定文化財の涅槃画を拝見できます。
- ・ 4月8日の灌仏会は桜満開の頃です。
- ・ 8月13日、暗くなってから行われる千灯供養の蠟燭の織り成す景色は、都会とは思えない景色です。蒲が花穂をなびかせている頃です。

平成20年8月20日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月08日

戸越公園

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月09日

熊本藩主細川家の抱屋敷という江戸の大名庭園、今は品川区の管理になっています。



古木が多いことも魅力の一つですが、池と池周りの庭園を楽しむ事が出来ます。戸越体育館に沿った道には、アオキの緑があり、春にはマンサクも花を咲かせます。その細い道を抜けると、木々に囲まれた庭園に辿り着きます。木々の向こうに、池と東屋が見えます。右手は、子供の広場と池の周回路になっています。木陰の中を進み、ムラサキシキブがあるせせらぎの入口から、紅葉や、花々、緑に包まれた東屋、池を見ることが出来ます。この時期は、百日紅が目立っていました。風も無く、水面にも東屋、百日紅、緑が映っています。



東屋や広場から池の対岸を楽しむ事が出来ます。近寄って拝見できない池の対岸ですが、紫陽花や、花菖蒲も季節によって楽しむ事が出来ます。鯉や、水鳥が遊んでいることもあります。



今は、処暑の前、赤とんぼ、シオカラトンボが池の石に休憩していました。例年より、トンボの数は少ないようです。亀が甲羅干しをしていることもあります。なお、東屋付近には、ボランティア花壇も整備されています。



池に沿って広場を廻ると、大きな石に出会います。一つは、品川区と友好の山北町の石です。

もう一つは、数年前からよく発生した鯉ヘルペスで犠牲になった鯉を供養した鯉塚です。



橋を渡り、木々の間を進むと、木陰から、池と東屋が見渡せます。東屋から見る景色とまた、違った赴きです。左手から水音が聞こえます。木陰の中に小さな滝があります。この滝の水がせせらぎとなって、池に流れ込んでいます。



池の周りの広場の東にも門があります。門の脇から小さな坂を上ると、一寸した高台、木々の間から庭園を見ることが出来ます。



そこを降りると、池の南端の橋、その直傍に、近年、工事中の都道26号線にあわせて、防災対策用の門が設置されました。

平成20年8月21日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月09日

りんしの森公園ナイトハイク？

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月17日

我が荏原第一地区委員会では、今年も恒例の夏休み期間限定防犯パトロールを行いました。

私が所属する班は、りんしの森公園内を巡回しています。パトロールと言いながらお楽しみがあり、何をしに行っているのかと非難を受けるかもしれないのですが、闇夜の中、生命の誕生を写真に収めましたのでご紹介します。



子どもの頃は昆虫が苦手であまり関心がありませんでした。りんしの森公園へパトロールをするようになり、ライブでセミの羽化を見るようになってからは可愛らしく思え触れるようにまでなりました。懐中電灯のライトをあてて可哀相でしたが・・・地中で7年間暮らしやっと地上に出て成虫になり、子孫繁栄のため10日ほどで伴侶を探し一生を遂げるというセミに哀れみを感じました。



実に、神秘的で美しいです。

ぜひ、お子さんに見ていただきたいなと思います。



今年はカブトムシを発見しました。油面(目黒区)から親子がクワガタを探しに来たと話してましたが、見つけ出せなかったようです。りんしの森公園は公園にする為たくさん木を伐採したそうで、セミやカブトムシが一時期いなくなってしまったそうです。でも、今は戻ってきました。このまま自然を大切に守っていかれるとよいですね。

平成20年9月3日

●撮影：村井恵美子(記者NO.080201)

カテゴリ : 平成20年度

投稿日 : 2008年09月17日

第8回まちづくり事業展

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月19日

しながわ中央公園と品川区役所防災センターで、まちづくり事業について紹介する行事、まちづくり事業展が2日に亘って行われました。



9月6日午前10時しながわ中央公園で開会式、品川区本間副区長他の挨拶の後、子供たちによる開会のくすだま割り、品川区の「区の木、花、鳥」制定30周年記念写真展の表彰式等も行われました。今年のテーマは「安心安全のまちづくり」で、今回は、2016年の東京オリンピック招致を盛り上げたいと、アドバルーンも掲げられました。



まちづくり事業の展示紹介の多くは、防災センターです。



皆の関心は住宅問題、受付横で多くのパンフレットが配布され、耐震化に関する相談が行われました。ビル、マンション、木造住宅の耐震化、耐震シェルター等、色々あります。耐震偽装設計問題や、各地での大地震により、関心が高くなっているようです。



分譲マンションに関する相談には多くの人がつめかけました。



現在、商店街や個人で行われている雨水タンクの設置にも、多くの方が詰掛けていました。異常気象に対しての環境問題です。



会場の一角には、鉄道模型が置かれ、模型の電車も動いています。子供たちは、模擬の運転を楽しんでいました。しおり制作の指導も行われていました。



しながわ中央公園では、水道局による水の安全性の説明、下水道局による雨水の排水設備を浸透式にして、雨水を直接下水に流さない方法の説明、アンケート等も行われました。水害の際、水圧でドアが開かないことの体験装置もありました。



子供たちには、ミニ電車や、ふわふわ張です。
ドームが準備され、親子で楽しんでいました。



しながわ水族館からはペンギンも出張です。



綿飴やヨーヨーにも大勢の子供たちが



小型のショベルカーでの記念撮影

集まりました。

もありました。



シートベルト体験コーナーもあり、子供たちが体験していました。

平成20年9月9日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月19日

白露の頃

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月19日

残暑も落ち着いて涼しくなる頃ですが、9月に入ってから雷雨の毎日です。二百十日も過ぎやがて、二百二十日、本来、台風の季節です。天気図では、等圧線が、この一月以上、日本列島の真上に大きく一個あるだけで、雲が右回りや、左回りで流れています。日本列島が台風の発生地になったような錯覚です。雨になれば雷雨、晴れば30℃、本来の秋が待ち遠しくなります。

酔芙蓉

路地では、花の種類も少なく、一寸早めですが、八重咲きの芙蓉が咲いています。朝は、白色ですが、お昼には、ほんのりとピンク色になり、夕刻には、真赤になります。芙蓉の園芸品種で、お酒に酔って顔が赤らむ様を連想し、酔芙蓉と言います。普通は、淡いピンクの芙蓉、お昼時には区別が付きませんが、朝、白色であれば、夕刻観察して赤色であれば、間違いありません。多くの民家で栽培されています。一日花なので、朝は落花しています。

午前8時↓



正午↓



午後5時↓



ねむの木の庭



路地で花々が少ないように、この一月、目立った変化がありません。



見頃を迎えているカクトラノオに、珍しく、蜂が来ていました。昆虫の少ないこの頃、懐かしく思えます。



隣のタマスダレは、前日の雨で疲れ気味でした。



庭園奥のオミナエシ、もう少し、花数が増えるはずなのに、如何したのかなと思います。この時期になっても、ワレモコウや、フジバカマの蕾が見られません。秋の訪れがはるかに遅れているようです。

池田山公園



雨続きで、緑が映えていました。地面です。



東屋の前は、苔生したような地面です。



花の無い時期、東屋横で、百日紅が迎えてくれます。黒い実を付けている所もありました。



緑の細道では、タマスダレがありました。



池周りも緑に包まれています。



事務所横で、9月の防災の季節に合わせて、ポンプの手入れが行われていました。

平成20年9月8日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月19日

目黒川の色いろいろ

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月24日

2008年の夏は、異常気象により各地で雷雨・ゲリラ豪雨が多発し、不幸な水害事故も連日報道されました。くれぐれも犠牲になった方々の尊い命を無駄にしないようにしたいと思います。

この夏、目黒川におきましても異常現象が発生しておりました。毎年、夏になると緑色になる目黒川が、今年は白濁化してしまいました。



緑色（五反田大橋）



白濁（五反田大橋）



青緑色（五反田大橋）

目黒川は、8月17日には緑色でしたが、徐々に白濁化し、ピークの8月27日には、まるで大理石のような深みのある白色になってしまいました。白濁化に伴った異臭はひどく、「硫化水素自殺では」という通報が警察に入ったほどの悪臭（いわゆる玉子の腐った硫黄臭）を放っていました。白濁化の原因はいろいろ考えられるようですが、生活排水により水質が悪化し蓄積されたヘドロに、温暖化による水温上昇が加わり発生するとのことでした。

9月に入り品川地区の白濁化はなくなりましたが、目黒地区（雅叙園から上流）では、9月の中旬に入った現在も依然、白濁化と悪臭が収まりません。



白濁化（雅叙園前）

目黒川の色は、汽水域ゆえに複雑なメカニズムで変色します。8月27日に五反田大橋で白濁のピークを迎えたときに、数百メートル下流の御成橋では白濁化されていませんでした。おそらく、海水や川底の形状が微妙に影響していると思われます。



青緑色（御成橋）

9月15日の目黒川の色は、下流域では黒緑色、中流域では青緑色、上流域では白濁となっています。

品川区では、川の治水とともに様々な浄化活動にも取り組んでいます。8月に亀の甲橋で始まった高濃度溶解液による浄化実験を、今後も見守っていきたいと思います。

平成20年9月19日

●撮影：齊藤正(記者NO.080101)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月24日

ゼームス坂の緑が一段と綺麗な季節になりました

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月28日

私の住まいの近く、ゼームス坂の緑が一段と綺麗な季節になりました。特に早朝のゼームス坂は良い雰囲気です。ジョギングされてる方もたくさんおられます。



この坂はかつて非常に急な坂でしたが、明治時代にこの坂の下に住んでいたイギリス人のゼームス氏が私財を投じて緩やかな坂に改修したとのこと。そこで同氏の名前からゼームス坂と呼ばれるようになったそうです。

大井町駅から京急新馬場駅方向に徒歩5分ほどのところですよ。散歩にでもお出かけください。

平成20年9月15日

●撮影：三宅正洋（記者 NO.060101）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月28日

秋の品川寺

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月28日

京浜急行の青物横丁駅の近く、旧東海道に面したところに品川寺はあります。

「しながわでら」ではなく、「ほんせんじ」と読みます。

入り口では鎮座する立派なお地藏様が迎えてくれます。



山門の脇にある品川区指定文化財（天然記念物）のイチヨウの古木が有名です。

これは樹齢600年（推定）の大木で、夏には涼しさを提供してくれ、あたりはとても静かな場所です。



平成20年9月22日

●撮影：三宅正洋（記者 NO.060101）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月28日

つくつくぼうしの五反田公園

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月28日

桜の名所で有名な五反田公園の坂道です。夏には、喧しく感じられた蝉の鳴き声も、秋の気配が漂い始めますと名残惜しくなります。短かった夏に別れを告げるが如く、つくつくぼうしの鳴き声が轟いていました。ここは、季節が変わっても素敵な場所です。



写真1



写真2



石畳の坂道はみどりいっぱい、空気がおいしく感じられます。

平成20年9月22日

●撮影：三宅正洋（記者 NO.060101）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月28日

しながわ百景21番目東海寺大山墓地

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月28日

品川区青少年委員会では、11月3日に行われるしながわ横断ウルトラクイズラリー大会の実地踏査を9月21日に行いました。ポイントのひとつに東海寺大山墓地が入っており写真を撮ってきましたのでご紹介します。京浜東北線や山手線、東海道線、東海道新幹線などが通る線路に挟まれた場所に有名な沢庵和尚、賀茂真淵、鉄道の父と呼ばれる井上勝のお墓があります。秋のお彼岸の最中だったのでお参りの方がたくさんいらしてました。沢庵和尚のお墓には卒塔婆が供われていました。

沢庵和尚の墓



賀茂真淵の墓



井上勝の墓



平成20年9月26日

●撮影：村井恵美子(記者NO.080201)

カテゴリ：平成20年度

投稿日 : 2008年09月28日

第7回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2008年10月13日

平成20年10月3日、第7回環境記者情報交換会が8名の環境記者の出席のもとで行われました。

環境記者の皆さんの環境に対する関心や取り組みは様々で、お互い新鮮な話に耳を傾けました。



三宅さん

覚張さん

井上さん



井上さん



志賀さん

中西さん

・朝の街並みを眺めると並木がきれいだが、いろいろな物が落ちている。公共の場所を綺麗にしたいという気持ちでタバコの吸殻や空缶を拾っている。（三宅さん）

・ビルの建築ラッシュで自然が失われてゆく中、建設説明会で緑化を取り入れるよう強く要望した。（覚張さん）

・屋上菜園でいろいろな野菜を作っている。今年は、小玉だが皮が薄くて甘いスイカができた。同時に断熱効果抜群で、屋上雨水も100%利用している。（井上さん）

・五穀米の種まきから収穫までを行い、苦労もあったが良い経験になった。今日都会ではなかなか見られないアワやキビの紹介があった。（中西さん）

・自分もごみを拾っている。また町会でも落ち葉やごみ拾いをしている。

星薬科大学の薬草園は自由に見学でき、季節感を味わうことができる。（志賀さん）



川島さん

斉藤さん

・目黒川を定点観察しているが、水の色が雨、気温、生活排水などで変化する。区の浄化活動のお陰で以前に比べるときれいになっている。（斉藤さん）

・子供の出産を機に食の安全性や地球環境に注目するようになった。若い層がもっと身近な環境問題に関心を高められるように情報発信をしてゆきたい。（川島さん）

・夏休みには皆さんの協力で「打ち水会」を行ったが、1日だけではなく習慣化して欲しい。秋には区内で環境に関する様々なイベントがあり、参加、あるいは注目しましょう。（勝山さん）



勝山さん

後半は観光協会の常務理事でもある勝山さんから、しながわ百景の話題及び品川区の観光についての活動紹介でスタートしました。

個人では「しながわ百景めぐり」をしている人もいます。しかし百景だけでなく、それぞれの街にはそれぞれの自慢があり、その紹介してもらったらよいでしょう。また百景や見どころについて、その背景や歴史などを調べてゆくと更に興味がわいてくるとの話もありました。

話し合いは大いに盛り上がり、それが目黒川の話で頂点に達しました。きれいになった目黒川を船で上るイベントが予定されています。今後、桜の季節には川面からの花見を企画したらどうか。同時に目黒川を更にきれいにしようという住民意識を盛り上げてみてはどうか。中高年を中心にウォーキングが盛んで、そんな新たなイベントの企画提案があってもよい。環境と経済効果を考えた目黒川の取り組みについて話は尽きませんでした。

以上

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2008年10月13日

季節はずれの満開

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年10月31日

品川区南大井2丁目、京浜急行大森海岸駅前の歩道橋を境に大田区と品川区に別れ、品川水族館までの道の両側には多くのマンションが立ち並びます。

そのマンション群の居住者がボランティアとして歩道の環境整備を行っており、花壇には年2回の植栽、雑草駆除や歩道の清掃など日常の活動を行っています。

秋の植栽時期を向かえ夏花が少なくなっているこの時期、ひるがお科「るこうそう（留紅草）」が通りすがりの方や車を運転する方を和ませています。

暑さや環境にとっても強い花で、この夏の異常気象にもめげず歩道のフェンスや電柱をはうように勢いよく伸び、赤く可憐な花が満開です。

【るこうそう（留紅草）】

葉の形が朝顔に似ており、花の直径約2cm鮮やかな濃紅色です。



平成20年10月23日

●撮影：真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年10月31日

雑穀を収穫しました

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年10月31日

これまで新潟・津南町教育委員会の方と情報交換をしてきており、私が環境に対して興味を持っていることから、昨年雑穀類（ウルチアワ・モチアワ・ウルチキビ・エゴマ・モチキビ・シコクビエ等）の種子を送っていただき、今年の6月にこれらの一部を種まきし、生育状況を観察してまいりました。

(収穫前)



アワ（手前）



キ

ビ

この結果、9月末日には生育が完了して収穫の時期となりました。慣れない中で収穫を行いましたが、それぞれの実の分別の難しさに直面しております。

(収穫後)



アワ



キ

この情報は現地の方々に現在紹介中です。なお、むかしエゴマは品川区で多く栽培されており、荏原の「荏」は荏胡麻の名前に由来すると歴史本に記されています。

現在時間をかけて、収穫品の脱穀・分別作業を努力して実施中です。

平成20年10月10日

●撮影：中西義治（記者NO.060108）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年10月31日

花交差点の仲間たち

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年12月03日

品川区南大井2丁目のマンション6棟の人々が、力を合わせて環境整備活動を行っています。年2回の植栽と月例、日々の活動で、大森海岸駅前の歩道橋から品川公園（水族館）入口までの歩道の清掃と花壇の整備です。



ボランティア名でもある「花交差点の仲間たち」は、花を介して地域のいろんな世代が交差し、子供たちの心に残る花のある街をつくり、こころ豊かに（心の環境整備）安全で住みやすい環境にすることを活動の目的にしています。

ボランティアのシンボルマーク（下記）は、人々のこころ（ハート）が寄り添う深い絆をイメージしています。



◆歩道花壇の植替え（11月9日（日））

12月上旬頃の寒さの中での作業でしたが、秋から春先までの花をボランティア52名で植替えを行いました。

今回は、マンション毎に花選定したこともあり、それぞれの特徴が出ています。花交差点の仲間たちが「わが花園が一番！」と自慢話に華が咲く、楽しみ方もいろいろな大森海岸南大井2丁目花ロードです。次回植替えの来年6月頃まで、行き交う人たちに楽しんでいただけるよう日々の手入れを行っています。

◆花の種類

- ・ランタナ（「花交差点の仲間たち」のシンボル花です）
毎年ランタナの生花やポプリを使用してクラフト作りを行っています。
- ・シラメ、デージー、プリムラ、パンジー、クリスマスプレート、ストック、アマジストセージ、マリゴールド、コウ





平成20年11月9日

●撮影：真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年12月03日

鮮やかなイチヨウの黄葉

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年12月05日

ここ2、3日の冷え込みで桜の紅葉が鮮やかになってきましたが、ところによってはすでに葉がほとんど落ちているところがあります。

荏原神社の横の目黒川沿いの桜並木も葉がほとんど落ちてしまいました。夕暮れにこの風景を見ると暖かいところが恋しくなります。

それに比べてイチヨウの木はいま黄葉真っ盛りをむかえています。しかし日当たりの少ないところはまだ青い葉っぱが目立ちます。

12月2日の午後、歩いてみました。北品川2丁目の品川図書館横の稼穡(かしよく)稲荷のイチヨウは、品川区内では一番の巨木といわれています。

南品川1丁目の海徳寺の2本のイチヨウ、同3丁目の品川寺のイチヨウが、いま鮮やかです。



稼穡(かよく)稲荷のイチヨウ 品川寺(ホセンジ)のイチヨウ



海徳寺のイチヨウ

平成20年12月2日

●撮影：秋田操（記者NO.080108）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年12月05日

暑くて眠れません（霧島ツツジの独言）（冬至の頃）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年01月05日



どちらかという午前中は日当りの好い斜面に住んでいます。一年中で最も昼間が短い日も過ぎ、雪がちらついてくれていてもいいのに、気配もありません。とにかく暑くて、ゆっくり眠れないんです。

人間達は暑さ寒さを全く感じていないようですが、大地に生きる生物には、暑い季節、寒い季節、心地よい季節が必要なんです。

南国育ちの身にとって、冬は、氷が張ったり雪が降ったりして寒いけれど、大切な休養期間なのです。澄み切った空の下、太陽の陽射しを浴びて静かに眠る事が必要なんです。

春になって、暖かさが増してきたら、目を覚まし、新鮮な緑の葉に包まれる事ができるのです。秋になっても冬になっても落葉はしませんが、春には、新しい緑になります。

その後、ピンクの花を咲かせる事ができるのです。

小鳥や昆虫達は、暑いからといって引っ越して行きました。寂しい一年でしたよ。附いて行きたくても行けません。

時折、目の前を煙を出す箱が通り過ぎて行きます。大嫌いな煙です。人間て平気なんですね。不思議な生き物？

こんな時期に目が覚めてしまったけれど、人間だって、同じ様にどこか狂っていませんか。狂わないのが可笑しいくらいですよ。皆、気付いていないだけです。

本当の冬が欲しい。でないとゆっくり眠る事が出来ません。春も来ません。でも私は好い方、一日中お日様に会えない所に住んでいる仲間も居ると聞いていますから・・・。

大地だって、暑い暑いといって顔に皺を寄せているではありませんか。あんまり暑くて、身体の中の熱が放出できないんですよ。血管が切れて、赤いものが噴出すかもしれませんね。

自然と闘うのではなく、自然は生みの親、優しくしてあげなければ、壊れてしまいます。掘り返したりしないで下さい。仲間をむやみに切らないで下さい。仲間は大切に育てると、人間の味方、心地よい住まいを作ってくれますよ。

地上の生命は、太陽の日を浴びるために生まれてくるのです。太陽を奪わないで下さい。

平成20年12月22日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年01月05日

ロウバイが満開

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年01月16日

しながわ区民公園の梅林にあるロウバイが早くも満開になっていました。



しながわ区民公園では、区内の他所より5～6日早く咲きます。例年、1月初旬に開花し、中旬に見頃を迎えます。

本来、ロウバイは1～2月の新春を告げる花です。

黄色の厚い花びらが蠟細工の梅に見える事が「蠟梅」の由来のようです。

青空に輝く黄色が何とも言えない花です。

なお梅林では、ロウバイに続いて、梅が次々と開花します。



平成21年1月4日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年01月16日

池田山公園の雪吊（冬至の頃）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年01月19日

池田山公園、冬恒例の雪吊が行われました。今年も昨年同様冬が何時来るのか判らないような気候ですが、温暖化というより異常気象、暑い日が続くといっても突然10℃近くも気温が下がったりするこの頃、まさかの大雪も覚悟しなくてはならない気象状態です。

雪吊は、雪の重みで松の枝が折れないように縄を使って保護する冬の行事ですが、枯れ木の多くなった冬の庭園では、緑の松に映える芸術品になります。池田山公園の松の木は斜面にあり、職人さんの腕の見せ所です。



雪から守る形、見た目にも綺麗な円錐形を作るには、木の大きさによって、柱の高さ、縄の数を決めて、作業にかかります。柱、縄の準備が出来たら、柱の頂上に、見た目にも美しい縄が広がるように、順序良く丁寧に並べて縛ります。雪吊の最も重要で手間のかかる作業です。

円錐型の台座になる細竹も準備、円周になる竹は、1本の長い竹を割って準備します。



柱を、円錐型の中央部になると思われる場所に埋め、柱に松の木をあちこちで括り付けます。

次に円錐型の台座になる部分、松の枝の下部に細竹を松の枝や幹、柱等に固定します、松の枝ぶりは木によって様々、見た目にも美しく仕上げるには、斜面の池田山公園では、大変な作業です。竹を支える人、固定する人に分かれて行います。

以上の下準備が出来たら、縄を円錐型に仕上げる作業です。



梯子と竹で作った庭師用の脚立でも、手が届くのは中ほどまで、柱の頂上から縄を解かすには、木に登っての作業です。

木の上で、順序よく一本ずつ解しながら、下に下ろします。



下では、竹竿に絡ませて縄を受け、台座の円周に仮止めをしていきます。
仮止めが終わったら、縄の長さを揃え、仕上げの留めを行います。



12月23日の朝から二人で始められた3本の松の木の雪吊作業は、24日午前中には仕上がりました。

本来の気候であれば、東京の降雪は大雪の頃、雪吊の準備ももっと早い時期に行われています。紅葉も終わり、枯れ木が多くなって、見通しが良くなった池田山公園、冬の花々に変わる日本の職人の伝統芸術品が、庭園を飾ります。



期日：平成20年12月24日

●撮影：内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年01月19日

池田山公園の雪囲（冬至の頃）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年01月19日

池田山公園では、松の雪吊が行われた後、蘇鉄の雪囲いが行われました。蘇鉄は、九州南部、沖縄地方、中国南部に育つ南国の常緑樹、寒さ、雪には弱いという事で、藁（わら）を、被せて冬越しを行います。松の雪吊と同様、庭園を飾るものとして行われてきましたが、最近では、積雪も少なく、暖冬と呼ばれる事が多く、雪囲いの需要も少なくなっているとのことです。

まず、蘇鉄の広がった葉を纏めて縛ります。（左下）

下の方から筵（むしろ）を巻きつけていきます。（右下）



全体を筵（むしろ）で包んだら、下から、縄で縛り上げていきます。（左下）

最上部を締めたら、藁（わら）で作った帽子を被せ、縛ります。（右下）



職人さんたちは「フラボッチ」と呼んでいるようですが、雪吊同様、神社、寺社の欄干等に見られる「宝珠（ほうしゅ）」「擬宝珠（ぎぼうし）」に相当するもので、雪囲いでは、防水機構に作られているそうです。

今では、雪囲いの需要が少なくて稀なため、藁の入手が大変だそうです。また、藁そのものも少なく、必要な部分を選び出し集めるのは、雪囲い作業の最初の困難だそうです。

「フラボッチ」の制作も、単に防水機能だけでなく、美観も必要なので、幾通りも形があり、手間のかかる作業だそうです。（左下）

最後は足下です。（右下）



藁がばらばらにならないように、竹で作った釘と縄で藁の裾を綺麗に並べて固定し完成です。（左下）

蘇鉄の防寒を目的としながら、冬の庭園の美観の要素の一つです。何気ない藁のようですが、日本の職人による伝統芸術品の一つです。（右下）



最近、需要が少なくなっていて、雪囲いの体験回数が少なく、後継者の指導、育成に苦労しているそうです。

平成20年12月24日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年01月19日

冬に咲く野の花を探して近所を歩いてみました

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年01月21日

暦のうえでは大寒をむかえ、いよいよ本格的な冬の寒さとなりました。早朝、コートに手を入れ、背中を丸めるようにして駅へ歩く勤め人の姿が街にみられるのもこの時期です。

ところで、この寒い時期に咲く「野の花」にはどんなものがあるのだろうかと思い、1月15日、好天気に誘われ近所を歩いてみました。

はじめは戸越公園に行きました。濃い緑色の葉をつけた常緑樹、あるいは落葉樹がこげ茶色の木の肌をさらしているのが目にとまります。

そんな中、ヒイラギナンテンがてっぺんのひげのように伸ばした枝に、小さな黄色いつぼみを沢山つけていました。間もなく咲き出しそうな勢いです。



ヒイラギナンテン

さらに歩いていくと、カンツバキが赤いつぼみを沢山つけていました。幾つか花もありましたが、本格的に咲くのはこれからです。カンツバキに隣接するサザンカは、ほぼ咲き終え、ピンクがかった花を元気なくつけていました。12月には満開だったので、
「次はカンツバキさんよろしくお願いします。」と言っているようにも思えました。



カンツバキ



サザンカ

ンカ

戸越公園を出ると、西品川2丁目のあるマンションの植え込みで足が止まりました。カンザクラが、あちこちの枝一杯に小さく淡いピンクの花を咲かせていました。なぜこの寒い時期に咲くの？と思わず木に尋ねたくなくなってしまいます。また、その植え込みの中にはヤツデが白い花を冠のようにつけていました。またシラウメもありました。



カンザクラ

ヤ

ツデ



シラウメ

フリルパンジー

次に、品川区役所前の中央公園では、ハクモクレンのつぼみが膨らみつつあるなどという様子。また、足もとの花壇には、野の花ではありませんが、かわいいフリルつきの花びらを持つフリルパンジー（フラメンコパンジー）が見事に植えられています。植物に疎い私だからかもしれませんが、これまでほとんど見たことのない花です。

自宅に戻ると、ノボタンが幾つか紫色の花をつけていました。また、ジンチョウゲのつぼみの赤色がハッキリしてきています。これが咲き、辺りに香りを放つようになると、私は春の足音が聞こえるような気分になります。

平成21年1月15日

●撮影：布川憲満（記者NO. 060107）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年01月21日

第8回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2009年02月25日

平成21年2月7日（土）、第8回環境記者情報交換会が7名の環境記者の出席のもとで行われました。

今回は昨年度以前にもお話いただいているインタメディア代表の佐山吉孝様から、「もう一度見直したいしながわの良さ」についてのお話を伺いました。

まずは環境記者の皆さんが取り組んでいる活動についてのご紹介です。

・34年間京浜運河に生息する生きものを観察している青野さん。運河の環境は外海からの流れ込みが影響している。現在運河では護岸工事が行われているが、場所によって果たして環境に良いのかな、生きものが酸欠を起こさないのかなと心配している。

・今年の正月は穏やかで、家でのおんぴりしたという布川さん。いろいろな鳥の音が聞こえた。我が家や隣家にある庭には緑が多少あり、去年は隣家の柿（甘柿）の木が豊作で、一部は鳥のために残しておいてあるという。

冬はあまり餌がない時期だが、鳥たちはその柿をついばみに来ていたとのこと。

・品川にも風力発電の利用を考えたらと語る覚張さん。また覚張さんはウォーキングを日課としており、今年の正月は天気が良く、三が日には品川、目黒区内の16ヶ所を歩いてきた。先日は五反田から丸の内まで歩いてきたが、往復歩いた去年までとは違い今年は無理だった（片道とした）。歩くことは健康にも良いが、自然の発見や思いがけない出会いもある。体力が続く限りウォーキングは続けたい。



・環境に関すること、小中学生と接することのボランティアに関わっている勝山さん。本年5月24日（日）予定のエコフェスティバルは、いろんな企業や学生が環境について発表する場、触れ合う場である。生まれも育ちも品川だが、ボランティア活動をするようになって区内にこんな良いところがあるということを知った。観光協会にも属しており、ウォーキングコースの開発や親水公園を作れないだろうかなどの議論をしたりして、品川の良さを再度発見しようとしている。

林試の森公園でのイベントが4月26日（日）に予定されている。地域の商店会、高校生・大学生が中心に実行委員会を作り推進しており、歌を歌いながらイベントを楽しもう、みんなで自然を鑑賞しながら意見交換をしようとしている。環境だけにとどまらないが、これらを観光協会がご紹介しているので、ホームページで見ていただき、是非イベントにも参加して欲しい。

・地域でのボランティアを通じて環境を見てゆきたいという真壁さん。まずは身の回りをどうにかして、それから他のところにも目が行けばと思う。

国道（第一京浜）の沿道をきれいにしようと、南大井二丁目の六棟のマンションの住民が環境整備活動（歩道花壇作り等）を行っている。

・体育指導委員でもある石毛さん。環境に関連することではないが、体育指導委員会でウォーキングを担当している。品川区内を年4回くらい歩いて回るが、毎回

300～400名の参加者があり、歩きながら話をする。コースを回るに当たり事前に3回は見て回っておく。少年サッカーにも関わっており、試合でいろいろな学校へ行き、学校の環境で気になることもあり、気をつけることにしている。

地元では商店会長をしており、地元での環境について一言。街路灯の下にプランターを置き花を植えている。街並みをキレイにするということと同時に、大型のトラックが街路灯を壊すことを避けるためでもある。

・真壁さんとともにエコサポーターでもあり、エコフェスティバルには毎年参加している白石さん。マイバッグが果たしていいのだろうか疑問に思っている。



以上、記者のみなさんの環境に対する思いと活動についてお話していただきました。

インタメディア代表の佐山吉孝様からは、「ちょっとエコな視点で見た私の好きなしながわ」と題し、今回は戸越周辺（戸越銀座）のちょっと気になる観察ポイントを紹介していただきました。



テーマを決めて何かをまとめようとする、よく知っているつもりでも最低3回は歩かなければいけない。また街を知るためには歴史、地形を知ること大切であり、自ずと注目するところも違ってくるということでした。

今回は戸越周辺の高台の古い道に関わる話をさせていただきましたが、確かに改めて聞くと、なるほど納得する点が多々ありました。

また記事を書くに当たって、下記のアドバイスを頂きました。

まずは歩くことです。その中から自分のテーマが見つかる。商店建築、路地の井戸やごみ箱、張り紙などからも時代と人々の暮らしが見えてきます。どんなささいなことでもいいですから、自分なりのテーマを見つけてください。そして気になることがあったらその観察を続けることです。しばらく続けて積み重ねていくと、だんだんそのものが持つ意味とか価値が見えてくるものです。

皆さんの思い浮かべる「環境」は様々であり、それぞれの思いや感じる「環境」について自由に書いていただいたら良いのではないかといった話で、第8回の情報交換会を終了しました。

(環境情報活動センター)

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2009年02月25日

フキノトウ目覚める

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月03日

東大井の散歩道に今年もフキノトウが花をつけました。
昨年は啓蟄の後、3週間ほど早い開花です。



フキは春先に、丸みを帯びた本来の葉を広げる前に、花びらのような葉に包まれた丸い筒のような花を咲かせます。筒のような花を花茎と呼び、その花茎を「ふきのとう」と言います。

アブラナやホウレンソウの葉菜やフキやケシの花茎を「とう」と呼ぶそうです。フキは葉の柄「葉柄」が食用として出回っていますが、この花茎も食用になるとのこと。

道行く人たち、「あ！フキノトウ！天ぷらでも美味しいんだよね」との会話です。春の息吹とは言え、もう少し休んでいればいいのに…。

なお、このフキは、民家の方が大切に育てているものです。野生ではありません。

平成21年2月16日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月03日

旗台小学校でサクランボ満開～心に残したい品川旗の台～

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月24日

品川には江戸時代から残る旧東海道の品川宿場町、漁師町と荏原の中心であった筍等農耕の村が鉄道等により急速に発展した昭和の町があります。

昭和の町は進化を続け、いつしか新しい街並みに変わります。その面影を訪ねました。



この春は、菜種梅雨と呼ばれているほどに、小雨や気温の低い曇った日が多く、開花具合が心配でしたが、例年のように、桜より細めの花びらをした可愛い花を咲かせました。例年との違いは、蜂や、目白、ヒヨドリたちが、姿を見せない事です。

路地では啓蟄を迎えたというのに、昆虫に出会いません、

小鳥たちのさえずりも聞こえません。雀だって目白たちの合間に来ていましたが、極めて静かです。



生まれたばかりの子は「赤ん坊」、桜から生まれた赤い実だから「桜ん坊」かもしれませんね。桜桃、西洋実桜とも呼ばれる西南アジア原産のバラ科の落葉樹です。

旗台小学校では、「実のなる木」を各学年で決めて観察していて、サクランボはかつて1年生や2年生の木でした。今年の担当は何年生？生徒たちの日記に「サクランボ開花」「満開」とあることでしょう。

生徒たちの見守るサクランボは、町の人たちに春を告げる花です。見上げながら、「5月になると赤い実が鈴生り、楽しみにしています」通りがかりの人が語ってくれました。



なお、隣の桜も開花しました。

平成21年3月12日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月24日

早くも桜開花～心に残したい品川五反田公園～

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月24日

品川には江戸時代から残る旧東海道の街並みや、荏原の中心であった筍等農耕の村が鉄道等により急速に発展した昭和の町並みがあります。昭和の町並みは進化を続け、いつしか新しい街並みに変わります。心に残しておきたい街並みの様子です。

五反田公園は、その荏原地区より北に位置しますが、東五反田の所属高級住宅街に繋がる路地、昔の邸宅が路地にあり、その跡地が公園になった、そんな趣が残る公園です。

路地は石畳の坂道、その両側に品川の桜の名所があります。



そのうちの一本が開花していました。見頃になると、石畳の両側の広場は、お花見広場になります。

平成21年 3月 2 2日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月24日

商店街の夕暮れ（春分）～心に残したい品川荏原中延昭和通り～

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月24日

品川には江戸時代から残る旧東海道の街並みや、荏原の中心であった筍等農耕の村が鉄道等により急速に発展した昭和の町並みがあります。昭和の町並みは進化を続け、いつしか新しい街並みに変わります。心に残しておきたい街並みの様子です。



東急池上線荏原中延駅付近から西に延びる荏原中延昭和通り、東西に一直線なので、彼岸の中日には、通りの中央東から日が昇り、通りの中央西に日が沈みます。日の出は雨で見ることが出来ませんでした。夕暮れ時に訪ねてみました。



通りの明かりも点き始めた頃、坂道の商店街の奥に、燃える夕陽が沈んで行きました。

日が沈んでうすら赤い中、地元の人たちが買い物を楽しんでいました。



平成21年3月22日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月24日

黄色い絨毯～しながわ花海道菜の花畑～

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月24日

品川は、東京湾に面して埋め立てが進み、平成にかけて整備された新しい品川があります。その地域と周辺の様子です。



しながわ花海道は地図では勝島運河ですが、歴史的には運河の一部が埋め立てられ、入江に似た地形の立会川河口です。河口は遊漁船の基地として、土手は桜が整備されましたが、6年程前から、地元の人たちによる「花いっぱい運動」により、お花畑に変身しました。

その後、勝島側の土手にも桜が植樹されました。菜の花の種まきは昨年秋に行われ、温暖化というよりも異常気象で、芽が出ても成長しなかったり、蕾が付いてもなかなか開花しなかったり、花が咲き揃うのが待ち遠しい毎日でした。雨水タンクの水を小まめ撒く人、散歩の人が絶えない所です。菜の花は咲き揃えば黄色い絨毯、青空を眺めながらお昼寝をしたくなります。



水辺では、品川区の鳥「ゆりかもめ」が休憩中でした。



先生を先頭に子供たちの散歩もありました。



北の端、鯨洲橋付近は富士山が見える場所、この日は雲に隠れていました。
風が強い所為かこの日出会った昆虫は1羽のモンシロチョウだけでした。



土手の桜もあちこちで開花。
大島桜がかなりあると聞いています。花と共に新しい緑の葉も姿を見せています。
桜と葉の花のお花見が同時に楽しめそうですね。

平成21年3月23日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月24日